

報道関係各位

SC販売統計調査報告2015年8月 既存SC前年比 : +1.6%

夏休み、多機能型SCを中心に家族・友達でショッピングのみならず、飲食・サービス(シネコン、アミューズメント等)を利用

＜全体概況＞

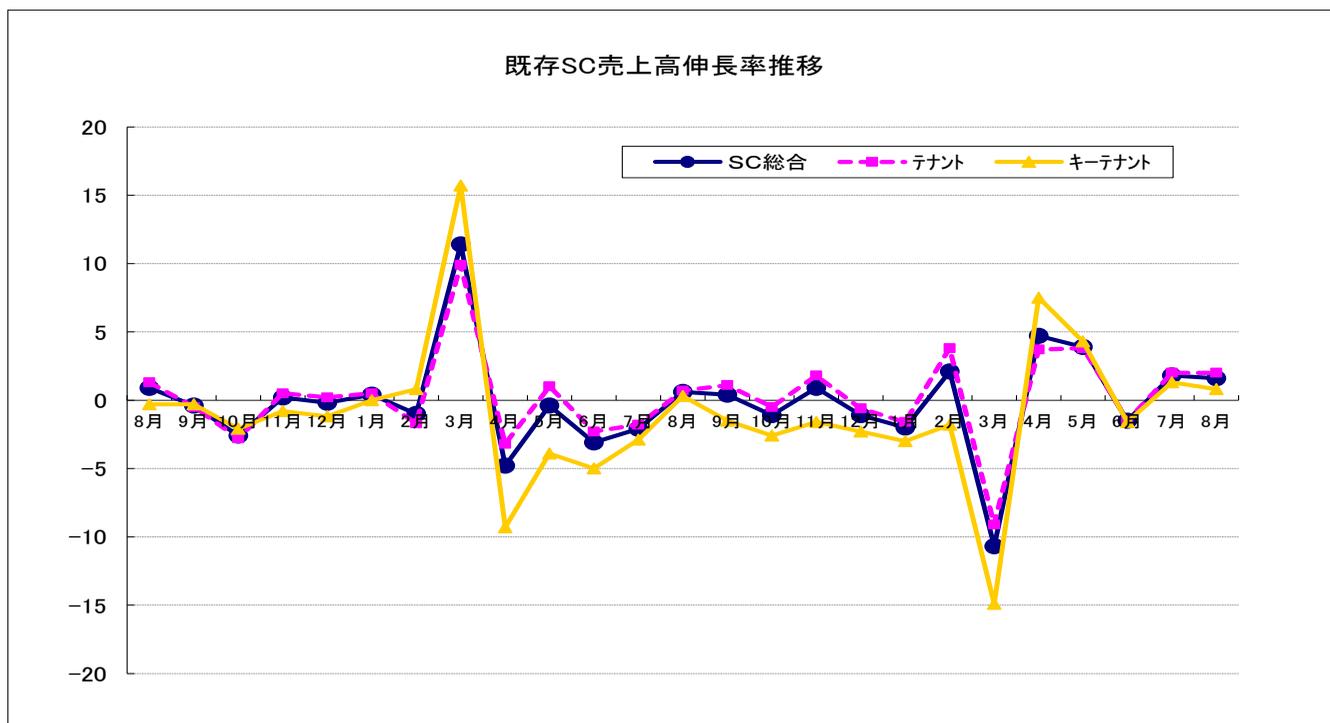
8月のSC販売額は前月に引き続きプラス(7月は+1.8%)となった。月の上旬は猛暑日が続く夏物商材が順調に推移したが、月後半は台風や長雨で急激に気温が低下したことで、一部秋物需要の動きがあったものの前半ほどの勢いはなく、月全体で+1.6%となった。

地域別では、中国地方がマイナス(-0.9%)となった以外はプラスとなった。とくに、北海道(+4.2%)、九州・沖縄(+3.1%)、北陸(+2.9%)の3地域は高い伸びを示した。これは、訪日外国人の増加や夏休み国内旅行需要の増加に起因するもので、依然として北陸新幹線効果が続く金沢、富山の駅前は高い伸び(+26.8%)となった。インバウンドや国内旅行需要以外の好調要因としては、夏休み期間中のイベント効果や地域プレミアム商品券、リニューアルによる新店の導入など消費意欲を喚起する要因があげられる。

テナント、キーテナント別販売動向では、テナントが+2.0%、キーテナントが+0.8%と、テナント伸長率が高くなっている。テナントの好調業種は、物販以外の飲食、サービスとの回答が多かったが、物販では雑貨や化粧品となっている。一方、不調業種では婦人衣料という声が多く聞かれた。婦人衣料については、キーテナントでも同様の回答が多くみられた。

＜トピックス＞

8月は夏休みやお盆休みで国内旅行・帰省など、多くの人々が車や電車などで移動する時期で、観光地ではインバウンドや国内旅行客によるお土産物など、ショッピングや飲食の場としてSCが利用されている。今回の調査でも食物販や飲食が好調で売上げに貢献しているという回答が多くみられた。また、お盆で帰省した際には、家族で近くのSCを訪れ、一日ショッピングやシネコン、そして食事を楽しむという光景が見られ、飲食やシネコンを好調業種にあげるSCが多くみられた。



以上
この件に関するお問い合わせは 情報企画部:今井・原田
TEL:03-3536-8121